

おひさま通信

〒779-3125
徳島市国府町早瀬字雀ヶ原218番6
Tel/Fax 088-642-5933
NPO HP <http://npo-ohisama.org/>



VOL. 11
2011年3月1日発行

特定非営利活動法人共同子育て広場おひさま（以下「おひさま」）は、1986年以来活動をすすめてきたすぎの子共同保育所の保育実践をベースに、新しく地域の子育て支援センターとしての役割を担いたいと2005年6月24日に設立認証されたNPO法人です。

おひさま通信は、会員や地域の方々を結ぶ機関誌として、おひさまの諸行事の案内や報告、すぎの子共同保育所の子どもたちの様子などを掲載しています（季刊）。

園開放事業報告 アレルギーっ子のお弁当作り



型抜きにじんを切っていきます
そーっとそーっと...

10月16日に、国府コミュニティセンターで、園開放調理実習『アレルギーっ子のお弁当づくり』を実施しました。参加者は、スタッフを含め11名でした。

今回の企画は食物アレルギーを持つ子どもの保護者から、お弁当について“見た目がかわい

く作れない” “（材料や調理方法が限定されるため）彩りを良くするのが難しい” “毎回、同じ中身になる”という声があったのがきっかけでした。その後どんなお弁当にするかをスタッフ間で話し合い、“季節感のある旬の食材を使う” “朝の短時間で作れるもの”等を考慮し、秋の行楽弁当の献立を考えました。

当日は、子どもが食べる量が入るお弁当箱を持参してもらい、2班に分かれて調理が始まりました。家庭での料理や子どもの様子、お弁当を作った時の話等々、おしゃべりも楽しくはすみながら作っていきました。料理が出来上がると、各自お弁当箱に詰めてもらいました。少しの工夫で、立体的になったり、見栄えがよくなったりするので、参加者同士お互いの盛り付けを見合いながら集中して詰めていました。あまりにもかわいい出来栄に、とても満足そうでした。

その後、お弁当を試食しながら、感想などを話しあいました。『薄味だけどおいしい。』『工夫次第でかわいくなることを知った。』『本格的なお弁当が自分でも出来て嬉しかった。』との声が出ていました。さらに、アンケートでは、『お弁当づくりは、一工夫加えることや、盛り付け・見た目も大切だということがわかった。』『新しいレシピを知ることができ、今後のお弁当づくりの参考になった。』などの意見もありました。いただいた声を参考にしながら、今後も、参加したいと思っただけのような企画を考えていきたいと思

- ～ 献立 ～
- サツマイモご飯の栗坊おにぎり
 - 野菜たっぷり米粉ハンバーグ（肉除去）
 - どんぐりウィンナー & お花ウィンナー
 - レンコンのカレー 甘酢づけ
 - 小松菜のお浸し
 - 型抜きパプリカ
 - ミニトマト



米粉のハンバーグ作り
卵もパン粉もなして作ります
『こんな作り方があったらいいな～』



ご案内

みなさんの力でおひさまの活動を支えてください

会員募集

子育てが楽しくなる、子どもの目がいきいきと輝く活動に取り組みます。行事に参加できる、できないに関わらずおひさまを応援したいという方など、入会をお待ちしております（入会金なし）。

- 【年会費】 ★正会員：5000円 ★賛助会員：一口1000円
- 【会員特典】 ☆総会決議権（正会員のみ） ☆おひさま通信配布（年3回）
- ☆イベント割引（例：園開放通常参加費大人300円⇒100円）

寄付のお願い

引き続き寄付をお受けしております。

【会費、寄付振込口座および振込名義】

郵便振替口座 01610-2-93045
口座名称 特定非営利活動法人共同子育て広場



2011.2.25現在：正会員61名 賛助会員9名



徳島博物館にて
おひさま体験（5歳児）

園開放事業報告

就学を見通した幼児期の子育て ～幼児期の生活の中で大切にしたいこと～



昨年11月6日、2010年度子育て講演会が開催されました。上記のテーマのもとに、小学校教諭とすぎの子共同保育所施設長より、それぞれの立場からお話をいただきました。

小学校教諭からは、学校生活の様子や授業の様子などを聞くことが出来ました。“子どもが変わった” “最近の子どもは…”と、よく聞くけれども、現象面だけであって、子どもの背景を考えていくことが大切だと話されました。施設長からは、年齢ごとの様子や幼児期に身につけてほしい力や経験してほしいことが話されました。“基本的生活習慣の確立” “自分のことは自分でできるように” “友だちと遊んだり、生活をしていくことが楽しいと思えたり、仲間と協力しながら自分たちの生活をつくっていったりすること”など。

質問コーナーでは、『家庭で子どもがする仕事を決めているが続かない』『子どもが自分に自信が持てない』『次への行動に時間がかかる』等が出されました。講師からは、いろいろな角度からのアドバイスがあり、また、参加者同士で共感する場面もありました。参加者からは『忙しい生活の中で見落としがちな子どもの心について、あらためて考え直すきっかけになった』『現実問題、日頃気になっているようなことが頭の中で整理できてスッキリした』『子どもとの関わりを大切に育児したいと思う』等の声寄せられました。



おひさまは こんなこともしています

- 特定非営利活動に係わる事業として
- 1) 保育事業
※「職員と保護者が共同して子どもの保育に関わる」保育所を目指します。
 - 2) こどもの育児相談
（発達に関する相談を含む）事業
※電話相談受付時間 13:00～16:00
 - 3) 保護者に対する子どもの健全育成のための啓発事業
※子育て講演会・園開放事業 等
 - 4) 障害児(者)の保育や発達に関する相談事業



ボランティア募集

もっとたくさんの人におひさまをしてもらい、活動を広げていくためにボランティアを募っています。

- ◇ 保育のお手伝い（要保育士資格）
◇ 事務局のお手伝い（印刷や発送などの作業）
◇ おひさま通信の編集
◇ 園開放事業スタッフ（受付・準備・広報等）
◇ 畑作業のお手伝い 等...

ボランティアさんの声

約1ヶ月間、給食と保育のお手伝いをしました。子ども達の、「おはよ～」「また来てな～」の声に毎日保育所に行くのが楽しくて楽しくて、子どもの成長を間近で見ることができたり、愛情いっぱい保育する先生達に改めて感謝したり、素材の味を大切にしたいし～給食に感謝したりと、とても幸せな時間を過ごさせてもらいました。機会があれば、またお手伝いしたいと思っています。

09年度卒保護者：京野

保育目標

- 丈夫なからだの子
- 豊かな感情をもった子
- 自分で考え行動する子
- 友だちを大切にできる子

子どもたちの生活を広く深く豊かなものに

生まれた時は、抱かれてお乳を飲ませてもらっていた赤ちゃんも、少しずつ大きくなり、ハイハイやつかまり立ちをしながら、自分の足で立とうとするようになります。大人にとってはまだまだ幼い子どもたちですが、様々な経験の中で考え、その子なりに気持ちを表現しながら、大人やお友だち（仲間）と関わっていく力、生活をつくっていく力を身につけていきます。その中でも、今回は、食事に関わる場面から子どもたちの様子を紹介します。

食べたい気持ちを育む

(0歳児：虹組)



食べる喜び“手づかみ食べ”
(1歳0ヶ月)

0歳児クラスは満1歳から受け入れています。離乳食から幼児食への移行期ですが、同じ月齢でも食体験は個々に違うので、言葉かけや援助の仕方はそれぞれ異なってきます。色々な食材や調理方法に出会うこの時期、本来の素材の味がどんなものが解るよう、そして、濃い味になれてしまわないよう幼児食よりもさらに薄味を心がけています。

弾力があって、口の中でまだうまく扱えないきのこやこんにゃく、ウインナーやちくわ等は、別の野菜に代えています。それは、丸呑みにならないようよく噛んで食べる練習ができるようにするためです。柔らかさや大きさも工夫しています。普段食べている野菜でも、調理方法や味付けの仕方が変わると口に入れようとしなないことがあるので、どんな味付け、調理方法の時に食べられたか、食べられなかったかを保育室と給食室が話し合いながら次の給食に活かせるようにしています。

お皿の外に出したり、口に入れてもすぐに出したりする時には、大人が「おいしいよ」と声をかけながらおいしそうに食べて見せます。すると、自然と、もぐもぐしてごっくんとのみこむことができるのです。その様子に、誰かと一緒に食べる大切さを感じます。

もう一つ大切にしたいことは、自分から手をだして食べる『手づかみ食べ』です。“これはなんだろう？”“たべてみよう”と手をのぼすという行為は、子どもの“食べたい”という気持ちの表れです。自分で食べる方法は、大人に教えられ、見守られながら身につけていきます。



なんだろうー
触っておえる食材展示
(1歳2ヶ月)



自分で食べる

(3歳児：星組)

現在4名の3歳児クラス。4歳児8名と同じ部屋で生活しています。何でも“じぶんで!”の時期。まだ、お当番活動はしていません。給食準備が始まると、自分たちで台拭きを取りに行き、両手でしっかり絞ります。3歳児が使う机と配膳台を丁寧に拭き終わると、お茶の準備。

普段から4歳児クラスのお当番を見ているので、給食を食べるまでにどのような準備があるのかよく解っています。お茶を入れ終わると、最初に配膳台へ食器1セット(スプーン・お茶碗・お椀・お皿)を取りに行き、自分の机まで運んでから、一皿ずつ自分でごはんとおかずを入れていきます。自分の目で見て食器の大きさを判断し、確認しながらよそっていきます。この時に、自分で食べられる量も考えながら入れていくように伝えています。



次にすることを友だちに教えてあげることもあり、自信とやる気満々の3歳児です。「あとで、おだんご(ままごと)しような」など、家や保育所であったことを楽しくおしゃべりしながら食べています。この時期は、食器やスプーンを持って介助されることなく一人で食べられるようになることや、「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつやマナーを身につけること、自分で食べられる量もわかるようになることなどを、学んでいきます。それは、自然とつく力ではなく、大人が根気よく関わることで、失敗してもくじけた気持ちを立て直し、もう一度やってみようと思うことの積み重ねでつく力です。



たまご焼きのてきまがりに。
(3歳児)

仲間と協力して生活をつくる

(5歳児：地球組)



思いっきり外で遊んで、「たがいまー」と保育所に帰ってくるとお腹はぺこぺこ。早速「ごはんのよういしよう」と給食の準備が始まります。配膳台や自分たちが食べる机の用意をみんなと協力して用意し終わると、お当番のグループ内で、台ふき・食器・ごはん・おかずの役割を決め、分担して全員分の配膳をしていきます。

最初の頃は、給食室に子ども達が取りに来ると、準備する人数や食器の種類が違ってないか、おかずを入れる食具の種類や数が適当かを見ながら、必要であれば「今日はみんな来てる?」「このおかずは何(どんな道具)でお皿に入れる?」と声をかけていました。しかし今では、大人が声をかける前に仲間の中から「きょうは〇〇ちゃんがやすみやから13にんじょ」「おかずいれるおはしがたりんよ」と言葉が出るようになりました。おかずをお皿に入れていく時も「〇〇ちゃんこのくらいたべれる?このくらいはたべような」とお皿を渡す相手とやり取りをしながら、ちょうどいいと思う量を入れていきます。



仲間との食事は空腹を満たすだけのものではなく、「おにごっこ、おもしろかったな」「たんけん、どきどきしたな」とそれぞれが感じたことを話しながら、「そうやなあ」「〇〇はこうだった(おもった)」など体験を分かち合う時間でもあります。食べながらいろいろな話をしたいから、この時間が楽しいから、給食の準備をしたいと思うのかもしれない。



お顔をさらされて
(5歳児)



「こんなことができた」「うまいかなかったなあ」など、生活の中には、いろいろな喜びや失敗があります。うまいっていいかなくても、子どもたちは明日のことを思い浮かべながら前を向いて進んでいます。

保育所に来て、「おはよう」と声をかけあう安心できる友だち(仲間)や大人がいること。驚きや発見、身体を使ったあそびや活動。こんなことをしたいという意欲があると毎日を楽しみと思うことができます。また、大きくなりたい、こんな大人になりたいという気持ちも自分を支える大切なことではないでしょうか。

子どもたちの心が動き出すきっかけは、何気ない生活の中にたくさんあります。食べる事への関心からも、子どもたちの生活への関心が、大きく、深く広がっていくことを願っています。

すぎの子共同保育所は、共同運営・共同保育を通して、子どもと子育ての夢を育てるところです。

HP <http://kyoho.org/>